

【研究概要】

自己免疫性辺縁系脳炎は、抗神経抗体が関連する大脳辺縁系を中心とした中枢神経の炎症性疾患である。診断の遅れや不十分な治療により重篤な後遺症を残すため、早期診断/治療が必要であるが、現状では診断にもかなりの時間を要する。本研究においては従来の画像・生理学的検査に加え、血液・髄液のリンパ球解析による病態評価、発症の危険因子となる遺伝子解析など複数の観点から、抗神経抗体毎に自己免疫性辺縁系脳炎のバイオマーカーを検索し、早期診断/治療に貢献することを目的とする。